

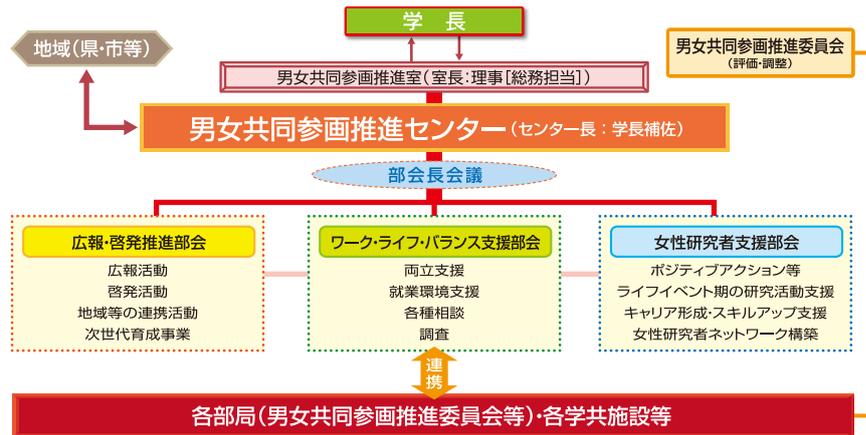


編集・発行

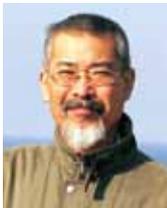
国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp http://atsuhime.kuas.kagoshima-u.ac.jp/

男女共同参画推進体制を強化

男女共同参画推進センターは、平成25年度から、新たに鈴木廣志学長補佐をセンター長として、運営体制を強化するため、センターの下に広報・啓発推進部会、ワーク・ライフ・バランス支援部会、女性研究者支援部会の3つの部会を置くとともに、センターと各部局との連携協力をより強化するために、新たに各部局において男女共同参画担当責任者(副部局長等)を配置しています。



女性研究者研究活動支援事業の最終年度に当たって



男女共同参画推進センター長

鈴木 廣志
(水産学部 教授)

国は男女共同参画白書によれば、日本の女性研究者の割合は平成22年現在で14%と主要国の中で最下位です。政府は男女共同参画基本計画において、「我が国が国際競争力を維持・強化し、多様な視点や発想を取り入れた研究活動を活性化するためには、女性研究者の能力を最大限に発揮できるような環境を整備し、その活躍を促進していくことが不可欠」と指摘しています。翻って鹿児島大学では、今年度が平成23年度に採択された文部科学省「女性研究者研究活動支援事業」の総括の年であり、かつ平成26年10月には本事業の評価を受ける予定です。

最終年度に際し、当推進センターは3部会体制を確立し、各部会を中心とした事業展開を始めました。この2年間で、女性研究者に対する研究活動支援や女性研究者の裾野拡大に向けた女子学部生・大学院生等への意識啓発など事業計画に掲げた活動は推進してきたと言えます。しかしながら、いまだ人事採用における仕組みづくりができていないのが現状で、数値目標として掲げた女性研究者在職比率の達成は厳しい状況です。人事は各部局の専決事項であり、事業終了時の目標17%の達成に向け、各部局が女性研究者を率先して採用できる仕組みを確立することが、残された半年間に課された最重要事項と考えています。学長のリーダーシップの下、学内の構成員の皆様のご協力を得ながら、よりよい仕組み作り尽力したいと考えています。

第2回 男女共同参画シンポジウム「女性研究者への持続的支援の構築をめざして」 開催のご案内

鹿児島大学では、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の総括シンポジウムとして、下記のとおり開催します。

▶ 日 時 11月29日(金) 14:00-17:15 ▶ 場 所 鹿児島大学稲盛会館

《第1部》

* 基調講演

女性研究者のリーダー育成と輝く未来に向けて
—継続の視点から—

講師 小館 香椎子氏
日本女子大学名誉教授
(独)科学技術振興機構男女共同参画主監

* 鹿児島大学事業報告

* 部局取組紹介

《第2部》

* パネルディスカッション

女性研究者への持続的支援の構築
—地方大学の課題克服をめざして—

パネリスト: 小館 香椎子氏
山縣 ゆり子氏(熊本大学副学長)
岩井 久(鹿児島大学農学部副学部長)
田島 真理子(鹿児島大学教育学部教授)

コーディネータ: 鈴木 廣志(鹿児島大学男女共同参画推進センター長)



※当日は、会場での一時保育を実施する予定です。

■ 「museカフェ」～メンターとの交流～を実施

昨年度創設したメンター制度の利用者がいないという現状を踏まえ、メンターと女性研究者及び女子大学院生が交流する機会を設け、集団メンタリングを行うことで、メンターとの関係を構築する契機とするため、6月19日～27日にかけて、3キャンパスにおいて計4回の「museカフェ」を開催しました。その結果、1名の方がメンター制度を利用して、メンタリングを受けました。



■ 男女共同参画トップセミナーを開催

7月18日、(独)科学技術振興機構の山村康子科学技術システム改革事業プログラム主管を講師として男女共同参画トップセミナーを開催しました。山村先生は、役員及び部局長等に対し、日本の女性研究者の現状、「女性研究者研究活動支援事業」等の概要とその成果のほか、事業実施機関における様々なポジティブアクションの事例を紹介した上で、本学が掲げた本事業における数値目標達成に向けて、教員公募における関係各方面への積極的な働きかけによる女性研究者の採用や、女性限定枠公募のポジティブアクションの導入などの必要性について指摘。最後に「事業計画で掲げた数値目標の達成に向けて、今後全学的にさらに努力していただきたい」と締めくくりました。



■ 女性研究者キャリア形成セミナーを開催

7月26日、九州大学研究戦略企画室・応用力学研究所の上瀧恵理子准教授が、「女性研究者のキャリアデザインと研究資金」と題して、女性研究者・女子大学院生等に向けて講話を行いました。上瀧先生は、ご自身の研究者になるまでのご経験を交えつつ、研究者としてのキャリア形成に必要な心構えや大学と企業の研究者の相違等について説明したほか、研究資金の獲得の意義、採択による効果や申請上の留意点について指摘した上で、「研究者としてのキャリア形成上には、多様なロードマップがあり、その中でチャンスをつかめるよう日々の準備と努力を惜しまないことが大事」と述べました。



■ 理系4学部による鹿大科学体験塾を実施

理学部・工学部・農学部・共同獣医学部が、女子中高生向けに鹿大科学体験塾～理系女子(リケジョ)ってカッコイイ!～を8月に実施しました。7コースに女子中高生54名(中学生:19名、高校生:35名)が参加。「今回の体験を通じてさらに興味が深まった」「日頃扱ったことのない実験機器に触れることができよかった」といった声がきかれ、実験や女子大学院生との交流を通じて、あらためて科学の世界への関心を深めるとともに、進路選択を考える契機になったようです。

共同獣医学部

獣医師の仕事体験



工学部

測ってみよう!
みんなの体の信号



モータを動かして
省エネを体感しよう!



理学部

何色がお好き?



BSアンテナを使って
太陽温度を測ってみよう!



農学部

発酵食品がもつ隠れたパワー



生命誕生の神秘



男女共同参画推進センター その他の主な活動記録(平成25年4月～9月)

●附属図書館との連携企画「読む・考える男女共同参画」: 附属図書館中央図書館1F
[6月21日～7月31日]

●「アサーティブコミュニケーション研修～相手の意図を汲んで、伝えたいことを伝えよう!～」
[7月3日]

メンター制度の整備充実の一環で実施したもので、郡元地区及び桜ヶ丘地区において、メンターをはじめ、40名の教職員・学生が参加しました。



●「英語論文書き方セミナー」[7月5日]

女性研究者及び女子大学院生22名が、英語論文の作成における構成や文法について学びました。



●理学部男女共同参画講演会[7月18日]

東北大学金属材料研究所 梅津理恵准教授が「アカデミックポストにおける女性研究者のキャリアアップ」と題して、理学部生及び理工学研究科大学院生等に向けて講話を行いました。

●オープンキャンパス企画「ガールズ☆Talk」を開催
[8月3日]

恒例の女子高校生・受験生を対象とした「ガールズ☆Talk」を開催し、190名の女子高校生が文系理系の13名の女子大学院生から学生生活の紹介や研究活動の説明を受けたほか、進路相談に応じてもらっていました。



農学部における男女共同参画推進の取組 《さらなる女性教員・女性研究者の増を目指す》



農学部副学部長
(男女共同参画推進センター副センター長)
岩井 久 教授

農学部には、附属施設を含めて、現在77名の教員が在籍しています。平成25年4月～9月の6ヶ月間に、新たに6名の教員が着任し、そのうちの3名が女性教員です。従ってこの間の女性教員の採用比率は50%となっています。平成24年度から教員公募時に「能力が同等であれば女性を積極的に採用する」旨の文言を明記し、その結果、女性研究者の応募が増えてきているようですが、目下の女性教員数は5名ですので、在職比率は依然として6.5%です。そこで農学部では、学部長裁量経費により、平成25年度から女性教員増等に向けたインセンティブとして、①新採用女性教員に対する採用後5年目までの研究費及び学会参加旅費（年10万円）の助成、②女性教員を採用した研究室に研究室への研究費（20万円）助成、③女性研究者及び女子大学院生に対する海外で開催される国際会議等への参加旅費の一部援助（年間総額30万円 1人当たり5万円を上限）を導入しました。

また、学部の企画ではありませんが、男女共同参画推進センターが主催する、女子学生や女子大学院生のキャリア形成に関わる各種行事に積極的に参画しております。8月のオープンキャンパス企画「ガールズ☆Talk」や、女子中高生のための鹿大科学体験塾－農学部企画「農ガールになろう!」では、女子大学院生が後輩の女子を理系へ誘うだけでなく、プレゼンテーションのスキルを磨くなど、本人達にとっても、良い動機づけの場となっています。また、参加した女子学生・女子大学院生の多くが、企業や自治体の技術職・研究職へ進むなど、かなりの効果を生んでいるようです。以前に比べますと、連合農学研究科へ進学し、博士を取得する女性も増えてきており、今後、これら優秀な人材を本学の将来に生かすための職域の整備について、他学部と連携しながら早急に進めて行く必要を痛感しているところです。

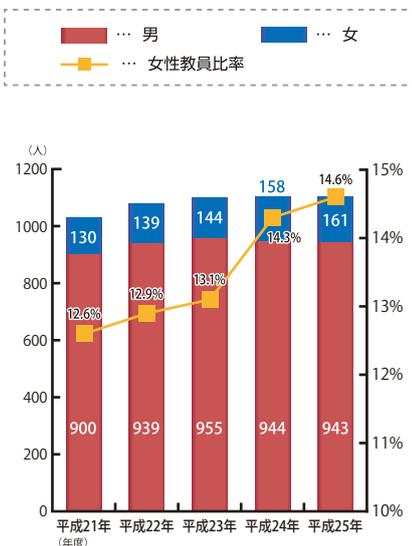


「女子中高生のための鹿大科学体験塾」での茶話会の様子

鹿児島大学の男女共同参画の現状と推移

鹿児島大学の男女共同参画の現状と推移（各年度5月1日現在）について、教員、学生、職員別に紹介します。

教員

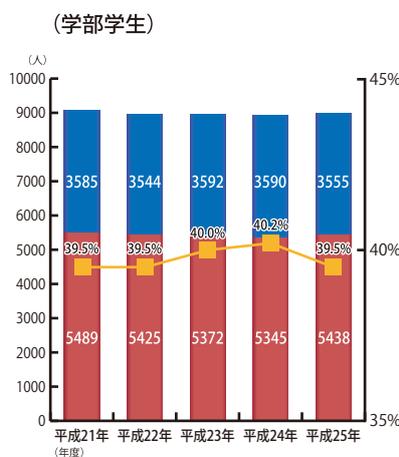


参考：九州・沖縄地区国立大学等の女性教員比率（平成25年5月1日現在）

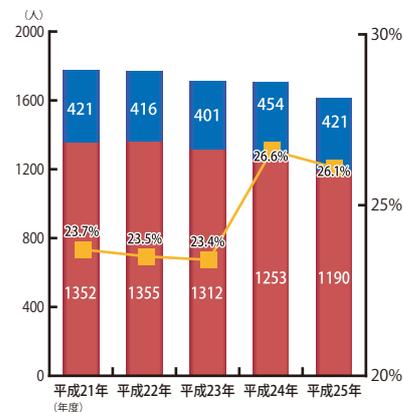
- 九州大学 12.0%
- 佐賀大学 15.9%
- 長崎大学 16.9%
- 熊本大学 16.1%
- 大分大学 17.3%
- 宮崎大学 15.7%
- 琉球大学 14.8%
- 全国国立大学平均 14.1% (平成24年5月1日現在)

※教員は、教授、准教授、講師、助教、助手を計上
※九州大学及び熊本大学は、特任教員を除いた比率

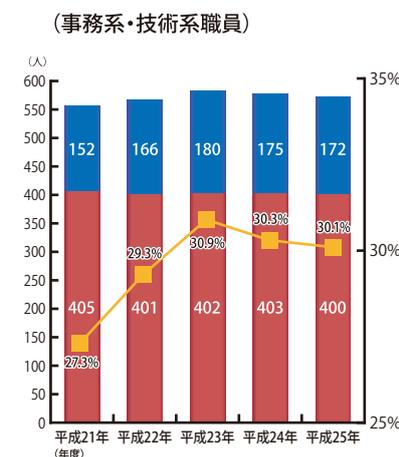
学生



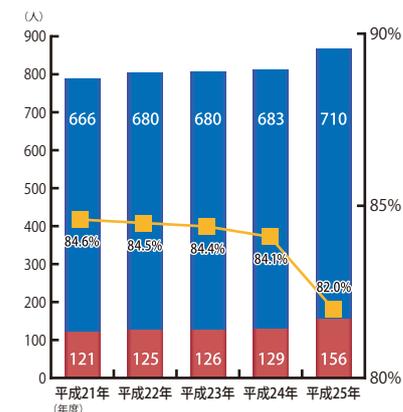
大学院生



職員



医療技術系職員



鹿大の女性研究者に Close-up!

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介します。



奥津 果優 特任助教 (鹿児島大学農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター)

Profile

2003年 京都薬科大学薬学部製薬化学科 卒業
 2005年 金沢大学大学院自然科学研究科博士前期課程 修了
 2007年 金沢大学大学院自然科学研究科博士後期課程 修了
 2008年 鹿児島大学農学部生物資源化学科焼酎学講座 プロジェクト
 研究員採用
 2013年 現職

— 「麹」を使った機能性食品の開発をめざす

現在、焼酎製造に利用される「麹」と健康との関わり(機能性)について研究しています。麹そのものの機能性を高める加工法や、麹を食品に混ぜることによる機能性の強化などを検討し、麹を使った新たな食品素材の開発を目指しています。具体的な実験内容としては、麹に含まれる成分の定性・定量分析、及びその生化学的な機能性評価を行っています。

— 麹菌との出会いが研究者への道を拓く

私は大学生の時、スリランカに滞在していた母の影響でインド伝統医学「アーユルヴェーダ*」を知り、伝統医薬についてもっと学びたいと思ったことがきっかけで大学院に進学しました。大学院時代はアーユルヴェーダで利用される薬酒をテーマとし、薬学部で酒の研究をすることに困難もありながらも、発酵微生物による生薬成分の変化について研究しました。結婚を機に来鹿し、鹿児島大学に焼酎学という酒専門の研究室があることを知り、「最初は酒の勉強をしたい!」という思いだけで焼酎学の門戸を叩いたのですが、そこで運良く研究員として働けることになり、現在に至ります。現研究室で焼酎製造に欠かせない麹に出会い、麹菌の可能性に大きな魅力を感じています。菌の種類は違えど、学生時代から興味があったことに今でも関わっているのは幸せです。

— 研究室の仲間に支えられながらの仕事と生活の両立

現在1歳半になる娘を研究者である主人と二人三脚で育てています。毎日朝と夕方のお迎えは私の役目なので残業や早出はできませんが、麹づくりをしている時はどうしても麹の様子が気

*サンスクリット語の「アーユス(aayus|生命)」と「ヴェーダ(veda|知識、学問、真理)」の複合語。「生命科学」ともいわれる。

になり、娘が寝静まってから様子を見に行くこともあります。また家でも仕事をする時は、朝一杯の美味しいコーヒーを飲むことを楽しみに早起きを心がけています。今年度から特任助教となり新たに学生実習等の指導などを担当することになりましたが、研究支援員のサポートを受けながら研究を進めています。辛いことや悩みがある時は、研究室の先生や学生さんに笑い話にしながら相談することでストレス発散しています。また研究室には同じ境遇の女性の先生や、子育ての大先輩の先生がいるので、相談するにはとても恵まれた環境ですね。

— これから研究者を目指そうと思っている方へのメッセージ

自分の世界にとどまらず、いろんな世界を覗いてみて下さい! 私の場合、それまで全く知らなかった「焼酎」という異分野に飛び込んだことで、違った研究の側面を学び、大きく成長できた気がします。様々な価値観を知ることは、研究生生活だけでなく自分の人生を豊かにすると思います。また物事をいろんな角度から見ることで、自分の抱えている問題が意外と簡単に解決できるかもしれません。



研究支援員と麹の出来映えをチェックしている様子

Q-wea 情報 Q-wea九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク

● 第5回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin福岡が開催されました

9月7日に「社会へひろがる 地域とつながる 女性活躍促進に向けて 大学からの発信」と題して、第5回Q-weaシンポジウムが九州大学において開催されました。2013ロレアル・ユネスコ女性科学賞受賞者である東京理科大学の黒田玲子教授の特別講演の後、九州・沖縄9大学の理事・副学長によるパネルディスカッションがあり、各大学の取組状況の報告のほか、女性研究者増に向けた具体策や支援策における課題をめぐって議論が展開されました。



Information

日本微生物生態学会第29回大会ランチョンシンポジウム (男女共同参画推進センター共催)

「アクティブな研究生活をサポート! 育児・キャリア・アップ世代を生き抜く仕事術」

- ▶ 日 時 … 11月23日(土) 12:00-13:00
- ▶ 場 所 … 鹿児島大学共通教育棟3号館311号講義室

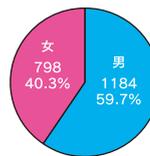
「男女共同参画推進に関する意識調査」を実施

男女共同参画推進センターでは、7月に「男女共同参画推進に関する意識調査」を全学常勤教職員及び研究員を対象に実施しました。回答状況については以下のとおりです。なお、結果の詳細については、男女共同参画推進センターHP等で公表予定です。

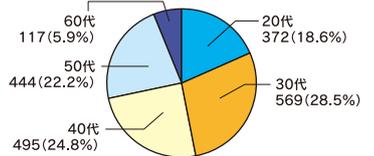
回収率 76.3% (2008人 / 2631人)

回答者の内訳

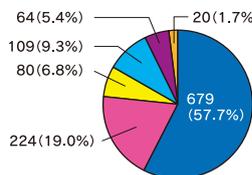
《回答者の性別》 n = 1982



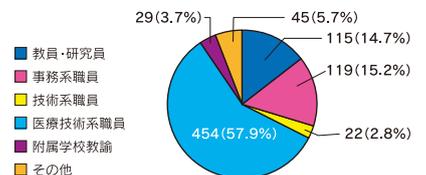
《回答者の年代別構成》 n = 1997



《職種別/男性》 n = 1176



《職種別/女性》 n = 784



編集後記

女性研究者研究活動支援事業も残すところ半年。事業の総括と女性研究者増に向けた数値目標達成に向けた全学的取組の推進が求められます。11月には、総括のシンポジウムが開催されますので、多くの皆様にご参加いただきますようお願いいたします。